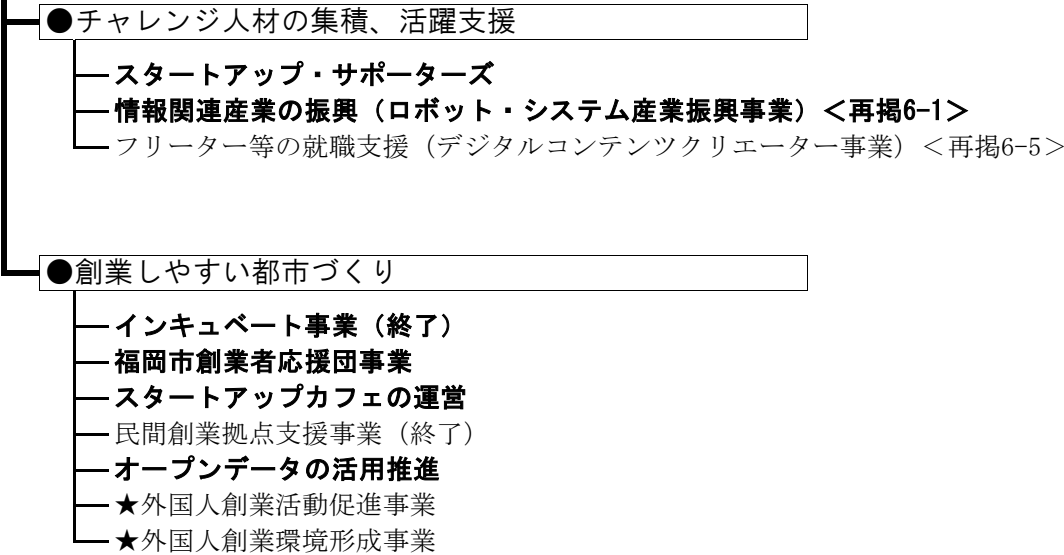


施策 7-1 新たな挑戦を応援するスタートアップ都市づくり			
施策主管局	経済観光文化局	関連局	総務企画局
施策の課題			
新たな価値の創出が必要とされている現代では、人間個々人が有する創造性あふれる感性やアイデアが重要であり、創造性に富んだ文化や産業を有し、多様な人材が集まり、活発な交流が行われる都市づくりが求められています。新たな価値を創造していく先鋭的な人材や企業が挑戦できる都市（スタートアップ都市）となるため、まち全体が実験の場となり、挑戦を支援していくことが必要です。			
施策の方向性			
創業や社会実験、ソーシャルビジネス、新たなプロジェクトなど、さまざまな分野でスタートアップ（新しい行動や事業を起こすこと）にチャレンジする人材や企業を国内外から福岡に呼び込み、インキュベート事業、創業者の成長段階に応じた支援など、それぞれのニーズに対応したきめ細かなサポートにより、福岡で活躍できる環境を整え、創業しやすく、新たなチャレンジを応援する都市の実現を図ります。			

《施策事業の体系》 ★：新規事業、◆：区事業 / **太字：重点事業**，細字：主要事業，[]：その他の取組み



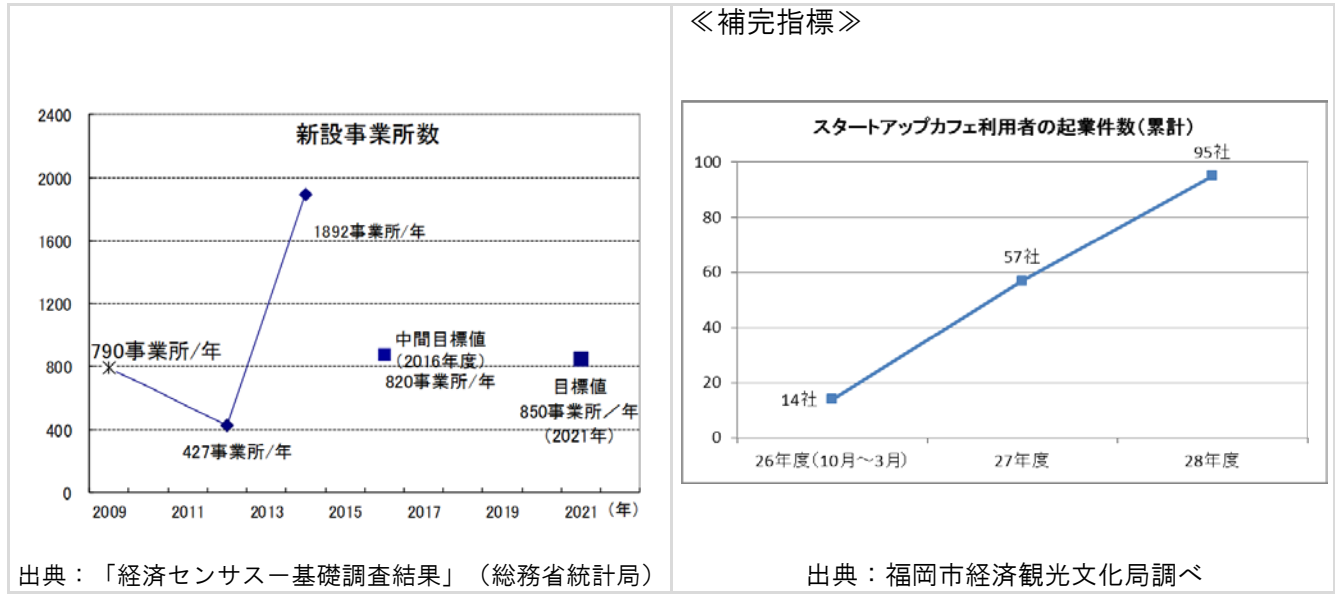
1 施策の評価

◎：順調	・スタートアップカフェ，スタートアップサポーターズやインキュベート事業などの取組みは，順調に進んでいる。 ・成果指標は，最新値の2014年のデータが中間目標値を上回る状況である（2014年の調査から新設事業所の定義変更に伴い，全国的に数値が大幅に増加している）。
------	---

2 施策の関連指標の動向と分析

《成果指標》

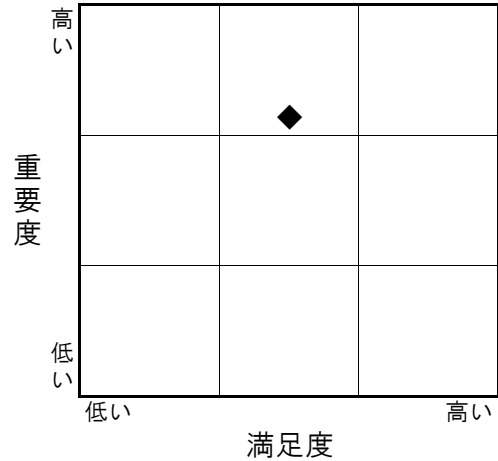
指標	初期値	現状値	中間目標値 (2016年度)	目標値 (2022年度)	達成状況
新設事業所数	790事業所/年 (2009年)	1892事業所/年 (2014年)	820事業所/年	850事業所/年 (2021年度)	(A)



《市民満足度調査（2015年度調査）》 創業しやすいまちづくり

満足度		重要度	
満足	15.5%	重要	50.0%
不満足	14.6%	非重要	5.4%
どちらでもない	66.5%	どちらでもない	41.0%

満足度と重要度の分布(平均評定値)【9区分評価】



指標等の分析
【成果指標】 - 調査日はH28.6.1であり、H24の調査以降に行われたスタートアップ都市づくり推進のための取組みの成果が数値に反映したものと考えられる。なお、前回調査から新設事業所の定義変更に伴い、全国的にも数値は大幅に増加している。 【補完指標】 - スタートアップカフェ利用者の起業件数は順調に増加していることから、スタートアップカフェにおける支援が充実しているものと考えられる。

3 取組みの進捗状況・課題と今後の方向性

● チャレンジ人材の集積、活躍支援

起業家教育や関係者ネットワーク構築などによる起業家支援

- 【進捗】・スタートアップ・サポーターズにおいて、これまで、サロン（イベント回数39回、参加人数1,099人）、ワークショップ（イベント回数10回、参加人数101人）やスクール（イベント回数59回、参加人数542人）の運営等を実施し、起業家の育成に寄与。
- 【課題】・本市のスタートアップの裾野は広がってきているが、スタートアップに投資等を行う支援機関は本市には極めて少ない状況である。また、「スケール」「グローバル」といった成功モデルが不足している。
- 【今後】・成長性の高いスタートアップを発掘し、国内外のスタートアップ支援機関とのマッチング等による成長支援を行う。

● 創業しやすい都市づくり

スタートアップ・パッケージによる創業・起業支援

- 【進捗】・創業の裾野の広げるために設置した「スタートアップカフェ」では、オープン以降、創業に関する相談（4,140件）、イベント等（882回）、人材マッチング（187件）などの支援を実施。その結果、スタートアップカフェの利用者から95社以上が起業するなど、創業の裾野は着実に拡大。
- *相談件数 H26n：533件、H27n：1,638件、H28n：1,969件
 - *イベント回数 H26n：223回、H27n：347回、H28n：312回
 - *人材マッチング H28n：187件
- ※国家戦略特区の取組みとして併設された雇用労働相談センター（国が設置・運営）も相乗効果で多くの方が利用している。（相談件数2,289件）
- ・民間による創業支援の充実を図るため「民間創業拠点支援事業」を実施し、創業者13人と新たな雇用16人が生まれた。
- *創業者 H27n：10社、H28n：3社
 - *雇用創出数 H27n：5名、H28n：11名
- ・外国人創業者への支援として、国家戦略特区を活用した在留資格（経営・管理）申請時の要件緩和による「外国人創業活動促進事業（スタートアップビザ）」を実施（開始以降申請31人）するとともに、「外国人創業環境形成事業」により住居及び事務所の確保支援を行った。
- 【課題】・国家戦略特区の規制緩和等を活用して、世界一チャレンジしやすい都市を目指した取組みが必要。
- 【今後】・国家戦略特区における規制改革（スタートアップビザ、雇用労働相談センター、人材マッチングセンター、スタートアップ法人減税等）の活用や新たな規制改革の提案に加え、住居及び事務所の確保支援やスタートアップカフェ等を活用した施策を充実させ、福岡市スタートアップ・パッケージとして戦略的・総合的に推進する。

●創業しやすい都市づくり（前ページからの続き）

インキュベート施設などによる創業・起業支援

- 【進捗】・インキュベート事業（原則入居3年間）では、これまでに236社（H29.3現在32社）にオフィスを提供し、創業直後の体力が弱いスタートアップ企業（創業5年未満）を支援。
・創業者応援団事業では、創業者応援団フォーラム、セミナー等を通じてスタートアップ企業同士の交流促進、販路拡大等を支援。また、優秀なビジネスプランを表彰、費用負担するステップアップ助成事業（約370社がエントリー）を通じて、スタートアップ企業のロールモデルとなりうる企業を発掘し、育成を支援。
- 【課題】・インキュベート施設が市内でも分散しており、支援体制構築や創業者間のコミュニティ形成が不十分であるとともに、創業者の可視化が不十分で外部から福岡市の創業者が見えにくい。
・ステップアップ助成事業について、補助金交付後のサポートが不十分。
・新しいビジネスへの支援対応等が必要。
- 【今後】・市内の直営インキュベート施設を集約し、民間事業者のアイデアやノウハウを活かした官民共働型のスタートアップ支援施設FUKUOKA growth nextの整備・運営を行うことで、スタートアップの見える化、成長の促進及び相互作用によるイノベーション創出、スタートアップ企業のさらなる成長や既存中小企業の第二創業促進を図る。
・ステップアップ助成事業の受賞者に対する継続的なサポート実施や成長支援につなげるよう実施方法等の見直しを図る。

グローバル展開を見据えた創業環境づくりの推進

- 【進捗】・国際的なイベントへの参加や、海外のスタートアップ拠点とのネットワークの構築、海外研修・セミナー等の実施により、グローバル展開を見据えた創業が可能となる環境づくりを進めた。
【H28n連携拠点】計7
*都市・政府系機関：ヘルシンキ市、台北市、エストニア（3機関）
*創業支援施設：サンフランシスコ、台湾
【H28nに参加した主なイベント】
*5月千葉「SLUSH ASIA」、5月エストニア「Latitude59」、7月台湾「IDEAS Show」など
【海外研修の参加者】
*研修への参加者数125名。うち93名が海外プログラムに参加。
- 【課題】・市内スタートアップの海外展開や、海外スタートアップからスタートアップカフェへの福岡市進出に関する相談件数が増加しており、相談体制の強化が必要。
・海外研修を含む各種研修において、参加者の様々なニーズやレベルに合わせる必要がある。
・海外のスタートアップや投資家に対するいっそうの情報発信が必要。
- 【今後】・市内スタートアップの海外展開や海外スタートアップからの福岡市進出に関する相談窓口を設置する。
・海外研修においては、国内研修のみのコースやオンラインで受講するコースを設けるほか、複数のプログラムを設定する。その他の研修においても、参加者のニーズ等に応じたプログラム設定を行う。
・海外のスタートアップや投資家等に向け、WEB、SNS、メールマガジンでの情報発信を行う。

4 重点事業

(1) スタートアップ・サポーターズ

目的	起業家教育、ネットワーキング、プロモーション等を実施し、「スタートアップ都市・ふくおか」の実現を目指す。			H28事業費	10,604	千円
				H29事業費	16,141	千円
対象	起業家、起業に興味のある者	担当	経済観光文化局創業・立地推進部創業・大学連携課			
実施内容	①成長性の高いスタートアップ等の発掘 ・福岡市内の有望なスタートアップ等を31社発掘し、事業内容や強みなどベンチャーキャピタル（VC）からの投資につながる情報の集約などを実施。					
	②スタートアップと国内外VCとのマッチングイベントの実施（2回） ・H28.11に実施、スタートアップ7社、VC11社（うち国外VC3社）が参加。 ・H29.2に実施、スタートアップ8社、VC4社が参加。					
	③成長支援 ・発掘したスタートアップ等について、日本語・英語による情報発信（15件）やフォローアップを実施。					
	指標内容		H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	スタートアップの発掘件数		30	31	103%	a
成果の指標	マッチングイベント参加件数		10	15	150%	
補足	－					

(2) インキュベート事業（終了）

目的	インキュベート施設において賃料負担の軽減及び経営指導等の支援を行うことで、自立した安定的な経営を行うことができる創業者を育成する。		H28事業費	128,082	千円
			H29事業費	0	千円
対象	創業予定者又は創業5年未満の者	担当	経済観光文化局創業・立地推進部創業・大学連携課		
実施内容	①インキュベート施設の運営 入居募集審査会 年2回 ・創業者育成補助金(上限3万円、家賃の1/2補助) 継続1社 86千円 ・地域産業振興負担金 …福岡ビジネス創造センター運営委員会に対する負担金 (23,091千円) ・共益費及び負担金 …賃貸借に係る共益費及び電気光熱費負担金 (21,664千円) ・使用料等の口座振替データ変換等委託 床清掃業務委託等(施設維持及び施設使用料等の請求にかかる委託業務) …313千円				
	②専門家派遣による経営指導 計 55回 (1企業につき、1か月～2か月に1回)				
	③公的支援機関等による支援施策の情報提供 毎月の定例自治会及びメーリングリストを利用して、適宜情報提供。				
	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	インキュベート施設の満床化(年度末の入居者数)	43	32	74%	b
成果の指標	入居者の年度末事業継続者数	36	36	100%	
補足	－				

(3) 福岡市創業者応援団事業

目的	企業、事業者の持続的な発展			H28事業費	3,888	千円
				H29事業費	3,750	千円
対象	創業予定者、創業して間もない企業、個人	担当	経済観光文化局創業・立地推進部創業・大学連携課			
実施内容	①福岡市ステップアップ助成事業 ・ビジネスプラン評価会にて、今後の成長が期待される優れたプランを審査し、賞金合計2,000千円（5社）を交付。					
	②創業者応援団フォーラム開催 ・地場企業経営者や専門家で作る「福岡市創業者応援団」の支援人材と創業者の出会い・交流や創業企業の紹介を目的としたイベントをフクオカスタートアップセレクションとの共催で開催し、約65名が参加。					
	指標内容		H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	ステップアップ助成事業応募件数		35	39	111%	a
成果の指標	ステップアップ助成事業採択件数		5	5	100%	
補足	－					

(4)民間創業拠点支援事業（終了）

目的	市内のインキュベーション施設の拡充	H28事業費	0 千円
		H29事業費	0 千円
対象	民間インキュベーション施設運営事業者	担当	経済観光文化局創業・立地推進部創業・大学連携課
実施内容	【地方創生関連交付金事業】 地方創生先行型（基礎交付分） H27終了 当該交付金事業としてはH27で終了した。 ①インキュベーション施設 平成27年度末では53室，平成28年度末では43室 ②雇用創出数 平成27年度末では5名，平成28年度末では11名 ③創業者 平成27年度末では10社，平成28年度末では3社		
	民間創業拠点支援事業は市単費で継続しており，本市における創業後の事業化支援の充実を図る。		
補足	—		

(5)オープンデータの活用推進

目的	①市民や企業が、オープンデータを有効に活用し、新事業や官民共働の新サービスを創出する。		H28事業費	3,825 千円		
	②二次利用しやすく、安心して活用できる形で公共データを広く公開する（オープンデータ化）。		H29事業費	4,229 千円		
対象	オープンデータの活用を望む市民・企業		担当	総務企画局ICT戦略室ICT戦略課		
実施内容	①オープンガバメント推進協議会 公開シンポジウム（横須賀市，11月）やRESAS研修（自治体職員向け），アプリの提供・改修を行った。					
	②自治体オープンデータサイトの運用 二次利用可能な行政データを提供するオープンデータサイト（他自治体と共同利用）の運用を行った。					
実施内容	③公開型GISシステムの運用 福岡市Webまっぷの運用を行った。					
	④まちかど安全ガードアプリ「けいご君」運用 まちかど安全ガードアプリ「けいご君」（アンドロイド版・iPhone版）の運用を行った。					
実施内容	⑤ビッグデータ・オープンデータ・イニシアティブ九州（BODIK） オープンデータ活用に関するアイデアソン等のイベントを開催したほか，研究機関や他都市と連携し，データの標準化などオープンデータの共同提供に向けた検討を行った。					
	指標内容		H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	福岡市Webまっぷのコンテンツ登録数		14000	26825	191.6%	a
成果の指標	データのダウンロード数（月平均）		-	約1,600	100.0%	
補足	ー					

施策 7-2 創造的活動の基盤となる文化芸術の振興			
施策主管局	経済観光文化局	関連局	市民局
施策の課題			
文化芸術は、魅力ある都市づくりや都市の個性を形成する面においても重要なものです。 文化芸術活動を行う人が活躍しやすい環境をつくり、都市の魅力を向上させていく必要があります。			
施策の方向性			
創造的な文化芸術活動は、デザインやファッションなどのクリエイティブ関連産業の基盤ともなるものです。これらを行う人々の自主性を尊重し、活動しやすい環境づくりを進め、福岡を拠点として、その能力が十分に発揮されるよう活動を支援します。			

《施策事業の体系》 ★：新規事業、◆：区事業 / **太字：重点事業**，細字：主要事業，[]：その他の取組み

●創造活動を担い、支える人材の育成と活動の支援

- **拠点文化施設整備検討<再掲1-4>**
- 香椎副都心公共施設整備（市民センター、音楽・演劇練習場）<再掲2-2>（終了）
- 福岡アジア美術トリエンナーレ
- FFACステップアップ助成プログラム（地域アーティストの育成）

1 施策の評価

○：概ね順調	・新たな音楽・演劇練習場の整備，拠点文化施設の整備（市民会館の再整備）に係る検討の推進などの取組みは，文化芸術活動を行う人が活躍しやすい環境づくりへ向けて，概ね順調に進んでいる。 ・（成果指標の設定なし）
--------	--

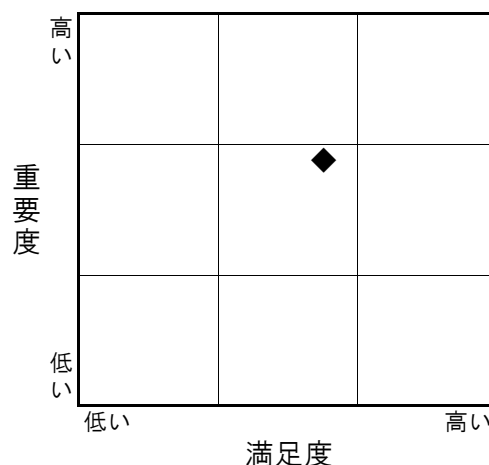
2 施策の関連指標の動向と分析

《市民満足度調査（2015年度調査）》
創造的な文化芸術活動がしやすい環境づくり

満足度		重要度	
満足	19.1%	重要	37.0%
不満足	8.7%	非重要	10.3%
どちらでもない	69.0%	どちらでもない	48.8%

※成果指標の設定なし

満足度と重要度の分布(平均評定値)【9区分評価】



3 取組みの進捗状況・課題と今後の方向性

●創造活動を担い、支える人材の育成と活動の支援

文化芸術活動を行う場の整備検討（拠点文化施設）

- 【進捗】・拠点文化施設整備（市民会館の再整備）については、拠点文化施設基本構想（H24.3策定）を踏まえ、H28.2に基本計画案を公表。パブリック・コメント手続きを経て、H28.6に基本計画を策定、公表。
- 【課題】・福岡市内では、専門性が高いホールの不足や近年相次いだ民間ホール等の閉館などにより、専門性が高い文化ホールの整備を求める声が多い。
- 【今後】・拠点文化施設整備（市民会館の再整備）については、H29nに整備計画等の作成を予定。

文化芸術活動を行う場の整備（千早音楽・演劇練習場）

- 【進捗】・香椎副都心公共施設整備として、なみきスクエア内に市民センター等とあわせて千早音楽・演劇練習場を整備（H26.10着工，H28.3竣工，H28.6開館）
- 【課題】・複合施設である特性を生かして運営する必要がある。
- 【今後】・市民センターホール利用者や地域団体が優先的に利用できるよう運用しており，今後も，利用状況を踏まえ，運用の改善を進めていく。

福岡アジア美術トリエンナーレの開催

- 【進捗】・アジアの現代美術を広く紹介し，国内外から高い評価を受けている福岡アジア美術トリエンナーレについては，次回の時期，内容，会場，開催方法等の検討を行った。
- 【課題】・トリエンナーレ形式（3年ごと）での開催にあたっては，効率的な運営体制や国内外への有効な広報・集客手段の検討が必要である。
- 【今後】・第6回展（H32に東京オリンピック開催記念として実施予定）を「アジアアートコンプレックス（仮称）」として再構成し，実施内容・方法・館外（博多部等）の会場のほか，国内外への効果的な広報手段等について調査・検討する。

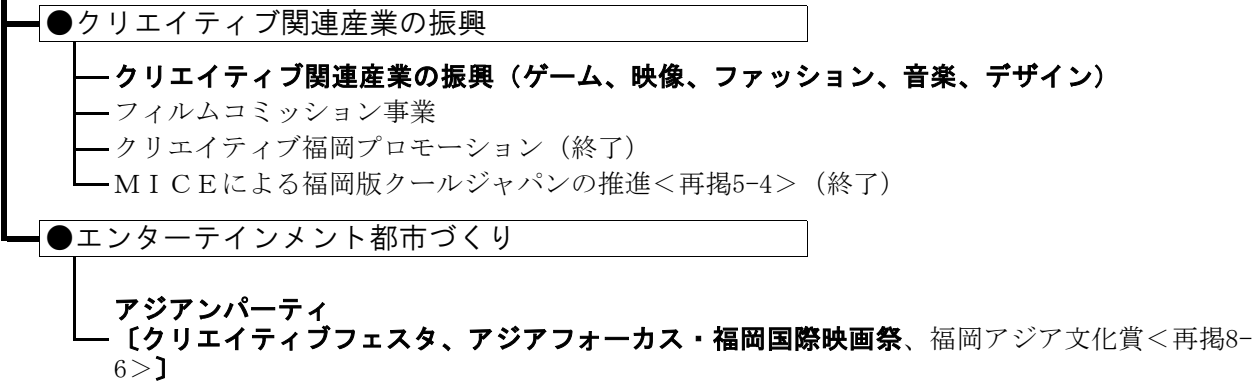
文化芸術を担う人材の育成と活動支援

- 【進捗】・（公財）福岡市文化芸術振興財団（FFAC）ステップアップ助成プログラムにおいて，団体・個人のステップアップを図るため，実施する文化事業に助成を行うとともに，専門家からのアドバイスや報告会などを実施。
*採択件数：13件（演劇6件，ダンス2件，音楽2件，美術2件，伝統芸能1件）
- 【課題】・文化芸術を鑑賞し，活動する市民の裾野を広げるためには，文化芸術を担う人材育成のための取組みや，市民の文化芸術活動へ支援策の拡充が不可欠である。
- 【今後】・既存の助成制度に加え，市民が文化芸術活動を行いやすい環境づくりを推進していく。

※重点事業等の設定なし

施策 7-3 個人の才能が成長を生む創造産業の振興			
施策主管局	経済観光文化局	関連局	ー
施策の課題			
個人の創造性や技術、能力を活用しながら、知的財産の創造と開発を通して、財と雇用を生み出す創造産業（クリエイティブ関連産業）は、新たな成長産業としても注目されています。福岡が強みを有するゲームやファッションなどのクリエイティブ関連産業をさらに発展させていくために、産学官民連携の推進や、関連企業や人材の誘致、集積を進める必要があります。			
施策の方向性			
ゲームをはじめとするデジタルコンテンツやファッション、デザイン、映画、音楽などクリエイティブ関連産業を官民一体となって振興するとともに、文化・芸術、食などを含めたあらゆるコンテンツを福岡市の魅力として磨き上げ、エンターテインメント都市づくりを進めます。			

《施策事業の体系》 ★：新規事業、◆：区事業 / 太字：重点事業、細字：主要事業、[]：その他の取組み



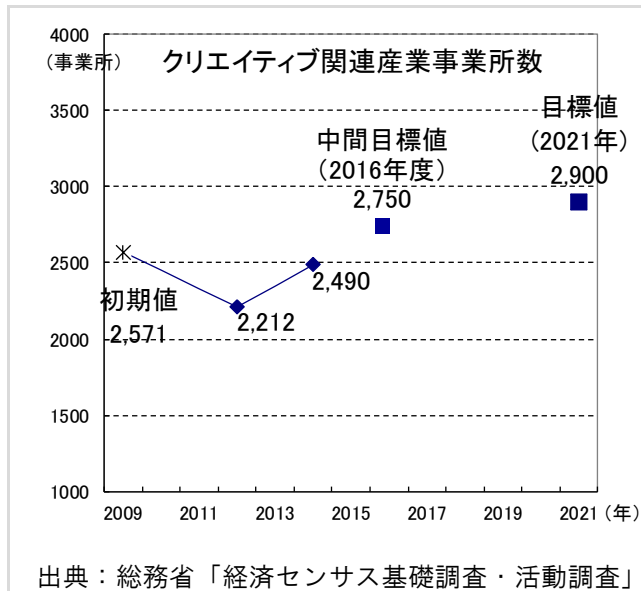
1 施策の評価

○：概ね順調	・ゲーム分野のインターンシップやゲームコンテストの実施、アジアンパーティの開催など、クリエイティブ関連産業の振興や、エンターテインメント都市づくりの取組みは、概ね順調に進んでいる。 ・成果指標は、初期値から伸びていない（最新値は2014年のデータ）ものの、クリエイティブ関連産業事業所数の増減割合（12.6%：2012年～2014年比較）においては、政令指定都市の中で第1位である。
--------	---

2 施策の関連指標の動向と分析

《成果指標》

指標	初期値	現状値	中間目標値 (2016年度)	目標値 (2022年度)	達成状況
クリエイティブ関連産業事業所数	2,571事業所 (2009年)	2,490事業所 (2014年)	2,750事業所	2,900事業所 (2021年)	(B)



《補完指標》

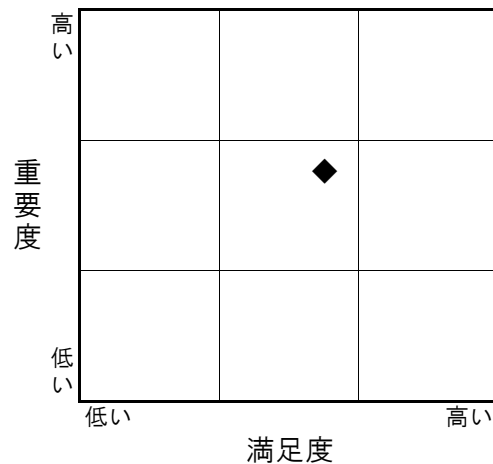
	初期値	現状値
クリエイティブ関連産業事業所数の増減割合の政令指定都市順位	10位 (-14.0%) 2009年～ 2012年比較	1位 (12.6%) 2012年～ 2014年比較

出典：総務省「経済センサス基礎調査・活動調査」

《市民満足度調査（2015年度調査）》 クリエイティブ関連産業の振興（ゲーム、ファッション、デザインなど）

満足度		重要度	
満足	21.8%	重要	32.5%
不満足	8.2%	非重要	12.4%
どちらでもない	66.8%	どちらでもない	51.3%

満足度と重要度の分布(平均評定値)【9区分評価】



指標等の分析

【成果指標】

・クリエイティブ関連事業所数は、リーマンショックや東日本大震災の影響により、2012(H24)に初期値から減少したものの、2014(H26)には増加した。
 ・また、2012(H24)から2014(H26)にかけて、クリエイティブ関連産業の事業所の増加数は政令指定都市の中で第1位となっている。

[補完指標]

・クリエイティブ関連産業事業所数の増減割合においても、政令指定都市の中で第1位である。

3 取組みの進捗状況・課題と今後の方向性

●クリエイティブ関連産業の振興

クリエイティブ関連産業の振興と人材確保

【進捗】◆ゲーム分野

・産学官（GFF+九州大学+福岡市）で組織する福岡ゲーム産業振興機構により、インターンシップ、ゲームコンテストなどの人材育成事業やイベントによる広報事業を実施。

＊ゲーム産業事業所数 31社（H28.1）→ 33社（H29.1）

＊ゲーム産業従業員数 1,444人（H28.1）→ 1,615人（H29.1）

◆映像分野

・海外の見本市等に参加・出展し、バイヤーとのビジネスマッチングを行うことにより、アニメーションやCG等の映像コンテンツの海外展開の支援を実施。

◆ファッション分野

・福岡アジアファッション拠点推進会議によるファッション産業振興事業として、福岡アジアコレクション（FACo）、ファッションウィーク福岡や合同展示商談会などを実施。

＊FACo入場者数:7,524人（H28n）

◆音楽分野

・「福岡ミュージックマンス」に参画し、音楽都市として情報発信するとともに、11月には、音楽ビジネスの活発化・拡大に向けたセミナーを行った。また、音楽産業振興基金を運営した。

◆デザイン分野

・NPO法人FUKUOKA デザインリーグや九州アートディレクターズクラブ等のデザイン関連団体と連携。また福岡県産業デザイン協議会事業へ参画し、ワークショップや販路拡大支援を行っている。

◆フィルムコミッション事業

・撮影支援を通じたシテプロモーションに取り組むとともに、ロケ支援事業者への登録促進等により、地元映像制作会社のビジネス拡大を図っている。また、海外の映像見本市への出展や、アジアフォーカス・福岡国際映画祭との連携等により、映像コンテンツの海外展開を支援している。

【課題】・クリエイティブ関連産業は、国のクールジャパン政策にも見られるように更なる成長が見込まれる中、福岡県内には多くの学生が在学しているが、そのうち福岡都市圏の理工系学生の半数以上が九州外に就職しており、若くて優秀な人材が福岡で活躍できる場を創出することが重要。

【今後】・クリエイティブ関連産業は更なる成長が見込まれ、本市の特性にもあった次代の成長エンジンとなりうる産業分野であり、産学官と連携しながら引き続き振興する。
・ゲームをはじめ、アニメ・映像、ファッション、音楽、デザインなどクリエイティブ関連産業を包括的に捉え、さらなる振興を図るとともに、海外展開や集客等を促進する。
・福岡ゲーム産業振興機構等の事業を通じ、企業が求める人材の育成に努める。

クリエイティブ関連産業の海外展開支援

【進捗】・地場企業からニーズのある国、地域においてFACoを活用した海外プロモーションを展開。バンコクにおいてはインバウンドツアーを造成。

＊FACo in 台北：来場者約550人 FACo in バンコク：来場者約500人

・また、並行して海外の展示商談会へ出展、商業施設での期間限定ショップの展開等、具体的なビジネス展開も目指した。

台北展示会（Taipei In Style）：出展6社、来場者数約18,000人（4日間）

台北商業施設（Q-square）：約900人

【課題】・海外市場を開拓するプロデューサーの不足、海外バイヤー等とのコミュニケーションを継続するリソース等、地場企業が海外展開するためのノウハウが少なく、力強さに欠ける。

【今後】・H28nに事業自体は終了したもの、引き続き海外販路の拡大支援のため、産学官・関係機関と連携しながら展示会出展等に取り組んでいく。
・海外企業との商談が進む見込みのある案件については、一定の目途がつくまで通訳・翻訳サービスを提供する等フォローアップを検討する。

●エンターテインメント都市づくり

クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおかの実現

【進捗】 ・「アジアンパーティ」として、「アジアと創る」をコンセプトに、アジアフォーカス・福岡国際映画祭、福岡アジア文化賞、クリエイティブフェスタの主要事業に加え、「アジア」、「クリエイティブ」、「今」をテーマに民間企業・団体等の各種事業と連携を図りながら、9月～10月に集中開催（18事業、約57万人参加）。

＊アジアフォーカス・福岡国際映画祭

312本(映像作品、関連企画含む)の優れたアジア映画を上映。

監督や出演者を招いたイベントを実施。

(来場者数：延べ40,286人(映像作品、関連企画含む))

＊クリエイティブフェスタ

市役所西側ふれあい広場で、「クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおか」を国内外に広くPRする象徴的な事業として実施。

(来場者数：延べ約64,000人)

・産学官で構成する「クリエイティブ福岡推進協議会（クリエイティブ・ラボ・フクオカ）」を推進母体とし、異業種間の交流・連携を促進。

＊セミナー・交流会の開催 7回

【課題】 ・「アジアを知る」をテーマに20年以上にわたって続いたアジアマンスから、「アジアと創る」をコンセプトにした「アジアンパーティ」として事業を再構築したことにより、さらなる集客や、「クリエイティブ・エンターテインメント都市」としてのブランディングを強化するとともに、クリエイティブ関連企業の集積へとつなげていくことが必要。

・アジアフォーカス・福岡国際映画祭は、市民がアジア文化及び映像文化に親しむだけでなく、アジア映画の情報拠点としてのブランディングや集客力アップが必要。

・クリエイティブフェスタは、クリエイティブ関連企業やクリエイターの交流によるビジネス創出につなげていくことが必要。

【今後】 ・引き続き「若い人材が豊富で活気のあるクリエイティブな街」を福岡ブランドとして確立させ、「クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおか」の実現に向け、事業を実施する。

・H29nで5年目となるアジアンパーティは、市民に対して背景・趣旨や目的等をより一層分かりやすく周知し、各事業における連携を強化していくとともに、より効果的な事業展開を検討する。

・アジアフォーカス・福岡国際映画祭は、優れたアジア映画の上映や監督、出演者との交流イベントを実施し、アジアに対する理解と文化交流を推進するとともに、魅力的な映画・映像コンテンツが集まる商談会や映像クリエイター育成のためのイベントを開催し、クリエイティブ関連産業の振興・人材育成を推進していく。

・クリエイティブフェスタは、クリエイティブ関連のステージやブースを増やし、よりクリエイティブ色の強い内容へ見直す。

4 重点事業

(1)クリエイティブ関連産業の振興（ゲーム、映像、ファッション、音楽、デザイン）

目的	・企業、個人クリエイターの販路の拡大、収益増加 ・クリエイティブ関連企業への就職希望者の就労			H28事業費	32,649	千円	
				H29事業費	29,120	千円	
対象	・市内クリエイティブ関連企業 （ゲーム、映像、ファッション、音楽、デザイン） ・個人のクリエイター ・クリエイティブ関連分野を専攻している学生	担当	経済観光文化局国際経済・コンテンツ部コンテンツ振興課				
実施内容	○ゲーム 産学官による福岡ゲーム産業振興機構を通じ、ゲーム業界の人材育成・確保に取り組んだ。						
	○映像 NPO法人映像コンテンツ研究会などと連携し、国内外の展示会参加やビジネスマッチングを実施し、映像コンテンツの販売支援やネットワーク構築を図った。						
	○ファッション 地場ファッション産業の活性化に向けた取組みを福岡商工会議所、福岡県等と一体になって支援した。						
	○音楽 福岡ミュージックマンスに参画し、音楽都市としてのブランディングを図るとともに、より一層の集客や関連産業の振興を図った。						
	○デザイン NPO法人福岡デザインリーグや九州アートディレクターズクラブなどのデザイン関連団体などと連携してデザイン関連産業の振興を図った。						
	指標内容			H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	インターンシップ開催回数			3	3	100%	a
成果の指標	市内ゲーム関連企業従業者数（人）			1,500	1,615	108%	
補足	－						

(2)クリエイティブフェスタ

目的	・異業種の枠を超えた、企業、クリエイターの活発な交流 ・またその交流から、新たなビジネス機会、価値の創出			H28事業費	75,074	千円	
				H29事業費	84,456	千円	
対象	・市内クリエイティブ関連企業（ゲーム、映像、ファッション、音楽、デザイン） ・個人のクリエイター ・クリエイティブ関連分野を専攻している学生	担当	経済観光文化局国際経済・コンテンツ部コンテンツ振興課				
実施内容	○アジアンパーティの開催 民間企業・団体等と連携しながら、「アジア」「クリエイティブ」「今」をテーマとした事業を9月～10月に集中開催。 ○クリエイティブ福岡推進協議会の運営 異業種交流を目的としたセミナー・交流会、ホームページ・メールマガジン等を活用した情報発信事業等を実施。 ○クリエイティブフェスタの開催（10月） 国内外に広くPRするためのイベントとして、「The Creators」を開催。2日間で約64,000名を集客した。						
	指標内容			H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	セミナー・交流会の開催数			5	7	140%	a
成果の指標	アジアンパーティの参加者数			465,000	570,065	123%	
補足	－						

(3)アジアフォーカス・福岡国際映画祭

目的	①大勢の観客でにぎわう。アジア映画を楽しむ。アジアの文化に親しむ。福岡市に映画祭があることを誇りに思う。 ②企業や人材が集積する。 ③福岡国際映画祭出品を目標とする。			H28事業費	53,085 千円	
				H29事業費	48,735 千円	
対象	①市民、観客 ②映像産業関連企業、クリエイター ③アジアの映画関係者	担当	経済観光文化局国際経済・コンテンツ部コンテンツ振興課			
実施内容	・27か国・地域の312作品を上映するとともに、16か国・地域から映画監督など76人を招聘し、前年を上回る40,286人が来場した。 ・オープニングセレモニーや福岡観客賞、バリアフリー上映会などの自主イベントのほか、国際交流基金アジアセンターとの共催によるベトナム大特集、協賛企画として台湾映画祭、福岡インディペンデント映画祭、福岡アジアフィルムフェスティバル、中学生招待など多くの映画・映像のイベントを実施。 ・クリエイティブ企画として、福岡で活躍するクリエイターの作品を特集上映する「福岡パノラマ」、テーマ毎の短編作品をセレクトした「ショートナイト」、日本と東南アジアの若手クリエイターの「交流ワークショップ」を開催するとともに、クリエイティブ産業の振興を目的とした商談会「ネオ・シネマップ福岡」を開催した。					
	指標内容		H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	映像関連商談会参加者		60	67	112%	a
成果の指標	上映作品（映像作品、関連作品含む）		250	312	125%	
補足	－					

施策7-4 多様な人が集まり交流・対話する創造的な場づくり			
施策主管局	住宅都市局	関連局	経済観光文化局
施策の課題			
新たな価値の創出が必要とされている現代では、人間個々人が有する創造性あふれる感性やアイデアが重要であり、創造性に富んだ文化や産業を有し、多様な人材が集まり、活発な交流が行われる都市づくりが求められています。新たな価値を創造していく先鋭的な人材や企業が挑戦できる都市（スタートアップ都市）となるため、まち全体が実験の場となり、挑戦を支援していくことが必要です。			
施策の方向性			
福岡都市圏の約3割の従業者や、多くの来訪者でにぎわう都心部においては、クリエイティブな人材や企業の集積、スタートアップ機能の充実を図ることとあわせ、建築物の更新期などをとらえた計画的な機能更新を促進し、オープンスペースをはじめとした出会いと交流を促す魅力的な都市空間の創出などにより、創造的な場づくりに取り組みます。			

《施策事業の体系》 ★：新規事業、◆：区事業 / 太字：重点事業，細字：主要事業，[]：その他の取組み

●創造的空間の整備・誘導

都心部のまちづくりの推進<再掲8-1>

1 施策の評価

○：概ね順調	・天神ビッグバンの推進，都心部機能更新誘導方策の計画の具体化など創造的空間の整備・誘導の取組みは，概ね順調に進んでいる。 ・（成果指標の設定なし）
--------	---

2 施策の関連指標の動向と分析

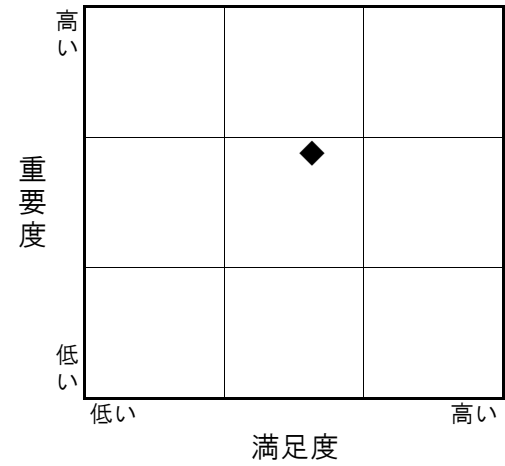
《成果指標》

なし

《市民満足度調査（2015年度調査）》

多様な人が集まり交流・対話する創造的な場づくり 満足度と重要度の分布(平均評定値)【9区分評価】

満足度		重要度	
満足	18.3%	重要	40.3%
不満足	10.3%	非重要	9.5%
どちらでもない	67.8%	どちらでもない	46.0%



3 取組みの進捗状況・課題と今後の方向性

●創造的空間の整備・誘導

「都心部機能更新誘導方策」等の制度の活用による都市機能の強化

- 【進捗】・民間建築物の建替・更新等の機会を捉え、まちづくりの取組みを誘導するため、まちづくりの取組みに応じて容積率の緩和を行う「都心部機能更新誘導方策」を活用した計画の具体化。
・国内外を問わず観光客が訪れる契機となるビッグイベントがH31以降に控えており、これらの宿泊需要を受け止める質の高いホテルをスピーディーに供給するため、「ハイクオリティホテル建設促進制度」を創設。
- 【課題】・安全安心で質の高いオフィスビルの確保などのニーズに対応するため、建替え更新期を迎えつつある都心部の民間ビル機能更新を促進し、一層の都市機能の強化を図ることが必要。
- 【今後】・更新期を迎えたビルの建替え等の機会を捉え、「都心部機能更新誘導方策」等の制度の活用を通じて、都市機能の強化につながるまちづくりの取組みを誘導。

天神ビッグバンによる都市機能の強化

- 【進捗】・天神地区においては、国家戦略特区による「航空法の高さ制限の特例承認」を獲得したこの機を逃すことなく、ハード・ソフト両面からの施策を組み合わせることで、アジアの拠点都市としての役割、機能を高め、新たな空間と雇用を創出するプロジェクト「天神ビッグバン」を始動。
・さらに、魅力あるデザイン性に優れたビルにインセンティブを付与する「天神ビッグバンボーナス」を創設し、H28.5.1運用開始。
・「天神ビッグバン」の第一号となる民間ビルの建替え計画が本格始動。H29n着手、H32n完成予定。
- 【課題】・都市づくりの基本理念や方針を示す「都市計画マスタープラン」や国家戦略特区の活用、新たな空間と雇用を創出するプロジェクト「天神ビッグバン」の推進など、まちづくりを取り巻く環境の変化に対応し、官民連携によるスピード感をもった取組みを進めることが必要。
- 【今後】・「天神ビッグバン」を推進し、今後10年で30棟の民間ビルの建替えを誘導。規制緩和などによって、民間投資を喚起することで、付加価値が高く、耐震性にも優れた建築物への建て替えを促進。「天神ビッグバンボーナス」等の活用により、更なる建替えを促進。

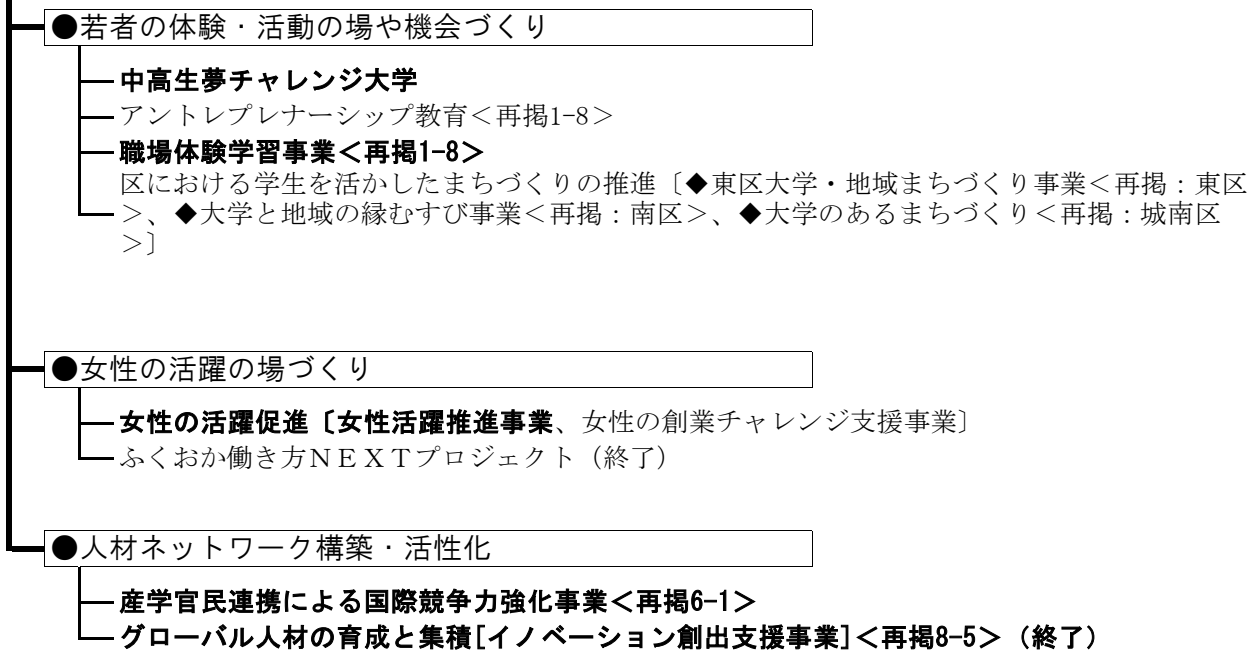
旧大名小学校跡地のまちづくり

- 【進捗】・地域・学識経験者・行政関係者などで構成する検討委員会や市民意見募集での意見を踏まえ、跡地を活用したまちづくりの基本的な考え方を示す「旧大名小学校跡地まちづくり構想」（H28.3）を策定。
・また、跡地利用を進めるにあたり、民間事業者のニーズを広く把握した上で、計画づくりに取り組むため、「旧大名小学校跡地に関する民間提案公募」を実施し、まちづくりのコンセプトや土地利用、事業手法、地区計画の方向性をとりまとめる「旧大名小学校跡地活用プラン」（H29.3）を策定。
- 【課題】旧大名小学校跡地は、地域におけるこれまでの地域活動や災害時の避難場所としての役割を担う場所であるとともに、様々な都市機能や交通拠点が集積する天神地区に隣接し、都心部の機能強化と魅力づくりを図る上で重要な役割を担う場所でもあるため、跡地の活用にあたっては、今後も地域などの意見をいただきながら、民間の活力を最大限に引き出し、地域にとって、福岡市の将来にとって、魅力的な場となるよう取り組んでいく必要がある。
- 【今後】・H30年度の事業着手に向けて、地区計画の都市計画手続きを経たのち、H29.10頃から事業者公募を実施手続きを実施し、H29年度末中の事業者決定を予定。

目標 7 創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している

施策 7-5 チャレンジする若者や女性が活躍するまちづくり			
施策主管局	経済観光文化局	関連局	総務企画局，こども未来局，市民局，教育委員会
施策の課題 女性，若者，学生が多いという福岡市の強みを生かしながら，自ら目標をもって行動し，新たな道を切り開いていく多様な人材を発掘，育成，支援していくことが都市の活力向上には不可欠です。 また，シニア世代を含め福岡に関わりをもった経験があり，キャリアやネットワークを有する人材の活用を進める必要があります。			
施策の方向性 目標に向かって果敢にチャレンジし，福岡を支え，リードする若者を育成するため，企業や大学などと連携し，さまざまな体験や活動の機会を提供します。それぞれがもつ可能性や創造力を引き出すとともに，福岡の将来を担う若者のネットワークを構築するなど，若者が多い福岡市の強みを生かしながら，都市の活力の向上を図ります。 また，より多くの女性がリーダーとして能力を発揮できるよう，キャリア形成への意識改革や，能力開発の支援，活躍しやすい環境づくりなどに取り組みます。			

《施策事業の体系》 ★：新規事業，◆：区事業 / 太字：重点事業，細字：主要事業，[]：その他の取組み



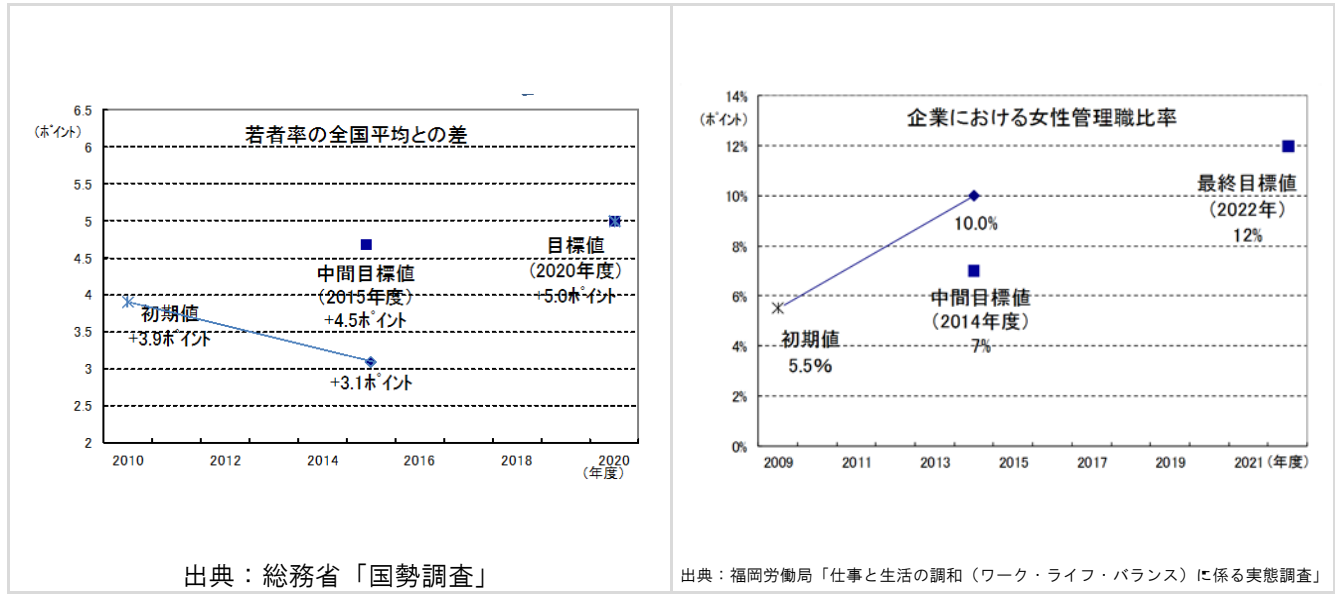
1 施策の評価

○：概ね順調	・ 職場体験学習を通じて中学生が将来を考える機会となる体験の場の充実，女性の活躍促進などの取組みは，順調に推移している。 ・ 成果指標は，「企業における女性管理職比率」に関しては中間目標を達成し，「若者率の全国平均との差」に関しては中間目標に届かなかったものの，若者率は引き続き全国平均を上回って推移している。
--------	---

2 施策の関連指標の動向と分析

《成果指標》

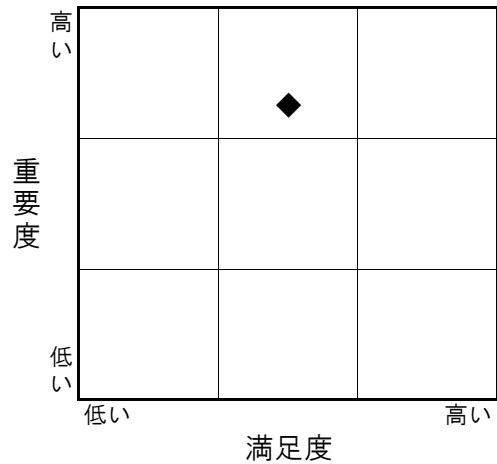
指標	初期値	現状値	中間目標値 (2016年度)	目標値 (2022年度)	達成状況
若者率の全国平均との差（福岡市の人口に占める若者率の全国平均との乖離）	+3.9ポイント (2010年度)	+3.1ポイント (2015年度)	+4.5ポイント (2015年度)	+5.0ポイント (2020年度)	C
企業における女性管理職比率	5.5% (2009年度)	10.0% (2014年度)	7% (2014年度)	12%	A



《市民満足度調査（2015年度調査）》

チャレンジする若者や女性が活躍するまちづくり 満足度と重要度の分布(平均評定値)【9区分評価】

満足度		重要度	
満足	19.1%	重要	63.8%
不満足	21.6%	非重要	4.5%
どちらでもない	56.3%	どちらでもない	28.6%



指標等の分析
・企業における女性管理職比率は、5年前の調査から約4ポイント上昇し、中間目標値を上回っている。 ・若者率の全国平均との差は、中間目標値に届かなかったものの、若者率は、引き続き全国平均を上回って推移している。

3 取組みの進捗状況・課題と今後の方向性

●若者の体験・活動の場や機会づくり

若者の主体性の醸成と職業観の育成

- 【進捗】・福岡を将来リードする人材育成を目的とする中高生夢チャレンジ大学を開設。
 ＊H28n 参加者82名
 ＊講座の満足度 H27n：97.3% → H28n：97.3%
 ＊自分には創造力があると気づいた生徒の割合 H27n：95.3% → H28n：97.1%
- 【課題】・創造力に富んだ人材の育成が課題であり、中高生の段階で自己の創造性に気づくことに繋がるような活動の場の充実が必要。
 ・「子ども・若者白書」（内閣府）によると、諸外国に比べ日本の若者（13～29 歳）は自己肯定感が低く、社会を変えられるかもしれないと考える割合も低い（30.2%）という統計がある。
- 【今後】・多くの中高生が参加し、成果を得ることができるよう、参加費や日程の設定、魅力のある講座づくりなど事業内容の改善を図るとともに、引き続き企業・大学等と連携し、福岡の将来を担う人材を育成する場や機会の提供に取り組む。

中学生が将来を考える機会となる体験の場の充実

- 【進捗】・市立中学校の2年生を中心に職場体験学習を実施
 ＊受入事業所数：延べ3,265箇所、参加者数：11,740名
 職場体験プラン：33プラン（福岡市役所関係：22、企業団体関係：11）
 ＊「将来の夢や目標を持っているか」（全国学力・学習状況調査）
 肯定的な回答の割合 H28n：中学3年生（福岡市）74.1%、（全国）71.1%
- 【課題】・将来を考える機会として活用できるよう、受け入れ先の事業所を拡充し、学生が体験できる職種を充実させることが必要である。
- 【今後】・受け入れ先の事業所について、各学校が独自に開拓する事業所に加え、企業団体からの事業所の提供や福岡市関連施設からの受け入れ部署の提供を受けて充実させる。

●女性の活躍の場づくり

女性の活躍促進

- 【進捗】・企業における女性活躍への取組みを「見える化」するサイトの創設（H28. 8. 30）
 ＊掲載企業167社
 ・「一般事業主行動計画策定支援セミナー&相談会」の開催
 ＊全10回 参加者計110人
 ・再就職を目指す女性向け講座の実施
 ＊3事業 参加者計151人
 ・リーダーを目指す女性向け講座の実施
 ＊参加者 64人
 ・起業を目指す女性向け講座の実施
 ＊4事業 参加者計553人
 ・「女性活躍推進や働き方改革に関するフォーラム」の開催
 ＊参加者273人
 ・社会貢献優良企業優遇制度（次世代育成・男女共同参画支援事業）の実施
 ＊認定企業数109社（H28n）
- 【課題】・女性の年齢階級別労働力率における「M字カーブ」の窪みは、浅くなる傾向にあるが、結婚や出産、育児を機に仕事を中断する女性が多く、女性の活躍は十分とは言えない状況である。
 ・女性の活躍は国の成長戦略の中核に位置づけられ、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」がH27. 8 成立した。福岡市においては、市内企業の9割以上が女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定が努力義務となっている従業員300人以下の企業であることから、女性活躍推進の取組みを促進していく必要がある。
- 【今後】・企業における女性活躍への取組みの「見える化」の推進、一般事業主行動計画の策定支援、働く女性向けの能力向上研修の開催、再就職や起業を目指す女性に対する研修や交流の機会の提供など、働く場における女性の活躍を促進する。
 ・契約上の優先指名など「社会貢献優良企業」の優遇措置を実施することにより、企業における女性活躍推進等への取組みを促進する。

4 重点事業

(1) 中高生夢チャレンジ大学

目的	自分の可能性や創造力に気づき、自分の強みや個性を生かした職業や将来を考える。			H28事業費	6,676	千円	
				H29事業費	6,088	千円	
対象	中学生・高校生	担当	こども未来局こども部総務企画課				
実施内容	参加者：８２名（中学生４３名，高校生３９名）						
	①開校式						
	・自分を知り，自分の可能性や創造性を掘り起こすワークショップを実施。						
	②講座						
	・９講座中２講座以上選択。						
	・福岡で活躍する職業人から，人生観・職業観を直に学ぶ。						
	③閉校式・交流会						
	・未来の自分への誓いを立てる。						
	・振り返りワーク						
	指標内容			H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	参加人数		100	82	82%	a	
成果の指標	自分には創造力があると気づいた生徒の割合（％）		66	97.1	147%		
補足	－						

(2) 女性活躍推進事業

目的	・女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定や「見える化サイト」登録で、企業の女性活躍が推進される。 ・女性社員の能力が向上し、リーダーが増える。 ・就業を希望する女性が再就職する。		H28事業費	8,202	千円
			H29事業費	8,093	千円
対象	・市内企業（経営者・人事労務担当者・社員） ・再就職を目指す女性	担当	市民局男女共同参画部女性活躍推進課		
実施内容	○一般事業主行動計画策定セミナー＆相談会の実施(300人以下の企業対象) ○「ふくおか女性課活躍NEXT企業 見える化サイト」の創設 ○社会貢献優良企業の優遇措置（女性活躍の要素を追加，見える化の実施） ○女性リーダー育成研修の実施 ○女性の就職支援セミナー ○お仕事再開応援フェスタ ○お仕事再開プチサロン ○資格・技術習得のための各種講座等の実施				
	シティハローワークみなみとの共同主催				
	指標内容	H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	「見える化サイト」掲載企業数	－	167	－	C
	女性リーダー育成研修及び女性の就職支援セミナーの受講者数	150	102	68%	
成果の指標	企業における女性管理職比率 (H26年度実績値10%)	－	－	－	
補足	－				

(3) ふくおか働き方NEXTプロジェクト（終了）

目的	企業における長時間労働の改善など、働き方の見直しや女性の活躍推進の取り組みへの機運醸成を図る。			H28事業費	0	千円
				H29事業費	0	千円
対象	企業の経営者・人事労務担当者等			担当	市民局男女共同参画部女性活躍推進課	
実施内容	【地方創生関連交付金事業】地方創生先行型（上乗せ交付分）			H27終了		
	当該交付金事業としてはH27で終了した。 なお、平成28年度の実績値としては、「女性活躍推進事業」を実施している。					
補足	－					

施策 7-6 大学や専門学校などの高等教育機関の機能強化			
施策主管局	経済観光文化局	関連局	住宅都市局
施策の課題			
福岡市には多くの大学が集積しており、若者や留学生を集め、育てる機能や、新たな知や技術を創出する研究機能をもち、都市の発展に重要な役割を果たしてきました。また、ゲーム、デザイン、ファッションなど多様なジャンルの専門学校も多く立地しています。 今後もこの強みを生かし、高等教育機関の機能を強化し、相互の連携を促進していくことが求められています。			
施策の方向性			
都市の活力を支える大学や専門学校の教育・研究機能を充実・強化するため、若者が集まるよう都市の魅力を高めながら、各教育機関の個性・魅力を向上する活性化の取組みや、大学間の連携・ネットワーク構築を積極的に支援、促進するとともに、地域や産業界との連携を推進します。			

《施策事業の体系》 ★：新規事業、◆：区事業 / 太字：重点事業、細字：主要事業、[]：その他の取組み

●教育・研究機能の充実強化

- 九州大学学術研究都市構想の推進<再掲8-2>
- 大学のまちづくり

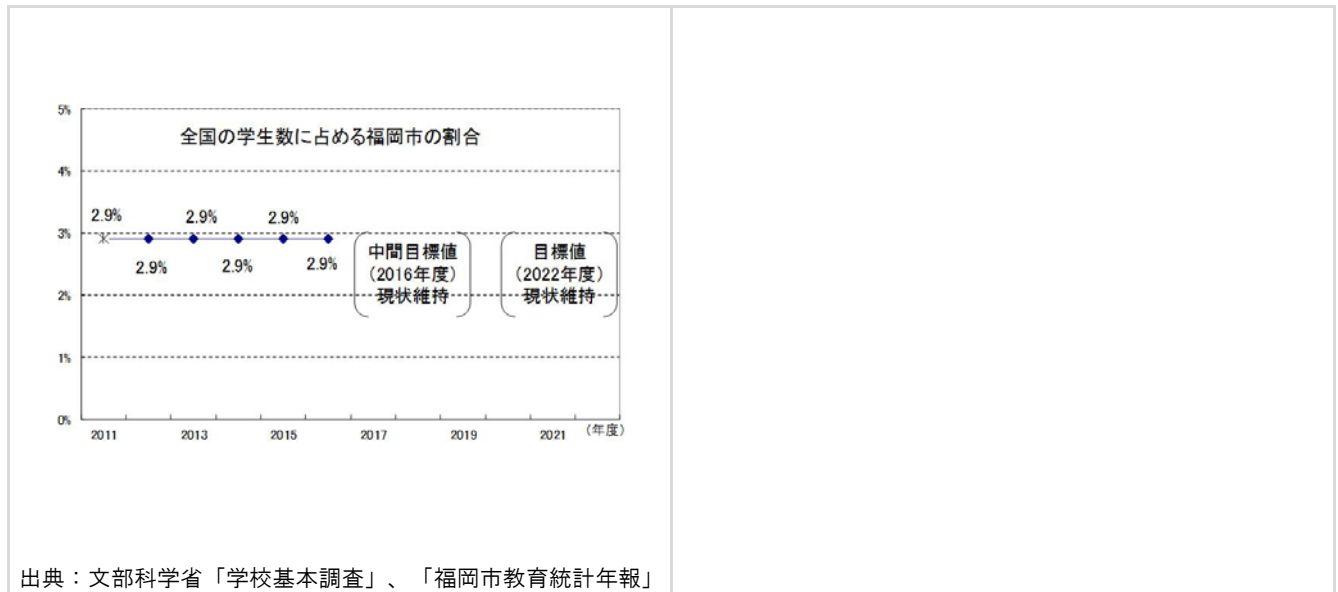
1 施策の評価

○：概ね順調	・大学のまちづくり事業、大学と産業界との連携などによる若者の定着促進などの取組みは、概ね順調に進んでいる。 ・成果指標は、中間目標を達成するなど、順調に推移している。
--------	---

2 施策の関連指標の動向と分析

《成果指標》

指標	初期値	現状値	中間目標値 (2016年度)	目標値 (2022年度)	達成状況
全国の学生数に占める福岡市の割合	2.9% (2011年度)	2.9% (2016年度)	現状維持	現状維持	A

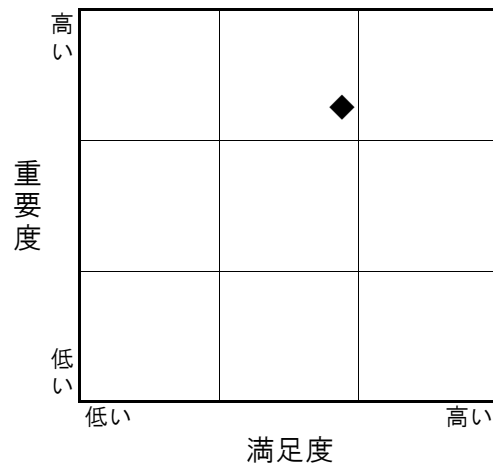


《市民満足度調査（2015年度調査）》

大学や専門学校などの高等教育機関の機能の強化

満足度と重要度の分布(平均評定値)【9区分評価】

満足度		重要度	
満足	26.9%	重要	62.4%
不満足	15.4%	非重要	4.4%
どちらでもない	54.7%	どちらでもない	29.4%



指標等の分析

【成果指標】
 ・直近3年では全国及び市内の学生数はほぼ横ばいであるため、全国の学生数に占める福岡市の割合も横ばいである。
 ＊H28n：福岡市110,726人（対前年比▲83人），全国3,779,362人（対前年比＋12,638人）

3 取組みの進捗状況・課題と今後の方向性

●教育・研究機能の充実強化

九州大学学術研究都市推進機構との連携

- 【進捗】・九州大学学術研究都市推進機構（OPACK）と連携し、九大学研都市構想の推進を図る。
【OPACKのH28nの取り組み】
 ○学術研究に関する広報活動事業
 ＊セミナーの開催：2回開催、参加者388名
 ○産学官の共同研究による研究開発支援事業
 ＊九州大学の超高压電子顕微鏡等を民間企業へ開放し、産学官交流・連携の促進を図ることを目的とした「超高压電子顕微鏡フォーラム」を運営（参加企業8社）
 ＊九大研究シーズ発表会の開催：1回開催、参加者約120名
 ○産学連携交流支援事業
 ○研究機関等の立地支援事業
 ＊企業誘致活動：約180社訪問（H17n～H28n：合計約1,100社）
 ＊企業向け現地説明会：28回開催
- 【課題】・九州大学において既に移転完了し産学官の共同研究や産学連携が進められてきた工学系分野に加え、平成27年度に移転した理学系や平成30年度に移転する農学系といった新たな分野において、今後更に産学連携の取り組みを進める必要がある。
- 【今後】・新たな分野である理学系・農学系について、重点的にセミナー等の広報活動や立地支援事業を行うことで、更なる共同研究や産学連携及び研究機関等の立地を促進する。

九州大学移転に伴う西部地域のまちづくり

- 【進捗】・元岡土地地区画整理事業地区内の立地割合
 ＊H28.3：50.2% → H29.3：56.2%
 ・九大学研都市駅～伊都キャンパス間の交通アクセス強化について、H30n統合移転完了時のバス路線再編の方針が定まった。
 ・河川改修事業進捗率（事業費ベース）
 周船寺川：H27n：52.7%→H28n：57.8%（見込）
 水崎川：H27n：71.5%→H28n：87.0%（見込）
 ・学園通線の整備推進
 ＊一般県道桜井太郎丸線（桑原2工区）：全線供用（H26n）
- 【課題】・伊都キャンパス直近のまちづくりとして、元岡地区は、学生住宅や研究開発機能などの立地が進みつつあるが、さらなる土地利用の促進が必要。桑原地区は、平成19年度に土地地区画整理準備組合が立ち上がったが、事業化に至っていない。
 ・平成30年の移転完了に合わせたバス路線の更なる充実や輸送力強化が必要。
 ・九州大学伊都キャンパスの整備や周辺まちづくりにより、雨水流出量の増加が見込まれるため、河川改修などの基盤整備の強化が必要。
 ＊周船寺川：延長4,580m、計画期間H13～H40
 ＊水崎川：延長3,810m、計画期間H10～H30
 ・学園通線の整備に関し、国補助金の内示額の低下による事業進捗の遅れに伴い、事業期間を延長。
- 【今後】・元岡地区では、まちの成熟を図るため、今後とも学生住宅や研究開発機能などの立地サポートを行うとともに、桑原地区については、周辺のまちづくりの進捗状況等を踏まえながら、引き続き、まちづくりの実施に向けて、関連課と共に技術的な支援を行う。
 ・バス路線の更なる充実や輸送力強化を図るために、交通事業者と共にバス路線の運行計画を策定するとともに、必要となる道路等の基盤整備を進める。
 ・九州大学統合移転の進捗状況を見据え、雨水排水の根幹をなす二級河川水崎川（H30n完了予定）・周船寺川（H40n完了予定）の整備を推進。
 ・学園通線の完成に向けて、事業を推進。

●教育・研究機能の充実強化（前ページからの続き）

研究開発機能の集積及び科学技術実用化支援機能の活用

- 【進捗】・有機光エレクトロニクス実用化開発センター（i3-OPERA）及び福岡市産学連携交流センターなどを拠点に産学連携を推進。
・H27.3に、理化学研究所及び九州大学と「地方発イノベーション創出に向けた連携協定書」締結。「政府関係機関移転基本方針」（H28.3 まち・ひと・しごと創生本部決定）には、「理化学研究所、九州大学、福岡市の三者による連携協定に基づく応用化学分野等における地域イノベーション創出に向けた連携拠点の設置」が記載された。「地域イノベーション創出に向けた連携拠点の設置」に向けて検討を進めるとともに、H29.3に理化学研究所・九州大学・市の連携によるフォーラムを開催。
- 【課題】・九州大学学術研究都市において、産学連携の環境は形成されつつあるが、周辺への民間企業等の研究開発機能進出には至っていない。
- 【今後】・（公財）九州先端科学技術研究所（ISIT）を活用し、産業界と大学等をつなぐ幅広いネットワークを形成し、理化学研究所や九州大学などの知的資源、技術シーズを活用した産学連携による地方発オープンイノベーションを推進する。

大学と産業界との連携などによる若者の定着促進

- 【進捗】・福岡都市圏18 大学、福岡商工会議所、福岡市で構成する「大学ネットワークふくおか」による大学のまちづくり推進。
*福岡での学生生活の魅力を発信するHP 等の企画運営。
*学生活動を支援し、地域を担う優秀な人材を育成するビジネスチャレンジ事業（支援対象団体：7 団体）、学生活動発表会（表彰団体：5 団体）の実施。
*企画立案を行う人材育成のための学生就業体験（ワークプレースメント）の実施（受入企業数：11 社、参加学生数：17 人）
*地場企業の魅力を学生に伝えるための企業見学会（5回、延べ81人参加）の実施。
- 【課題】・福岡市には、11大学・9 短大が立地する全国でも有数の大学集積地であり、大学の教育・研究機能、また若者の集積や大学活動等による経済波及効果など、大学は都市活力の源泉。
・一方、少子化やグローバル化の進展など、大学を取り巻く環境は厳しさが増大。
・福岡県内には多くの理工系大学生が在学しているが、そのうち福岡都市圏の理系学生の半数以上は九州外に就職しており、若くて優秀な人材が福岡で活躍できる場を創出することが重要。
・「大学のまち」としての魅力を高めるため、大学の活性化、大学間の連携・ネットワークを支援・促進するとともに、大学の魅力発信、学生の人材育成、企業と学生とのマッチングのさらなる推進が必要。
- 【今後】・学生集積のため、福岡、九州だけでなく、関東、関西など全国の高校生に対し、福岡の大学および地域の魅力の発信を推進。
・既に定着している「若者が集う街」としての評価を維持するとともに、さらなる若者の活躍や地元への定着をめざし、就職活動支援事業や大学や産業界との連携による各事業を着実に推進。

4 重点事業

(1)大学のまちづくり

目的	学生数の増加，地域の将来を支える人材の増加， 大学との連携による産業の活性化			H28事業費	8,341	千円
				H29事業費	6,996	千円
対象	学生，大学	担当	経済観光文化局創業・立地推進部創業・大学連携課			
実施内容	○大学ネットワークふくおかの運営 【情報発信事業】 福岡都市圏の大学及び福岡での学生生活の魅力を発信するため，ホームページの運営を行うとともに，進学情報誌での告知等により，ホームページへの誘導を図った。 【大学共同事業】 学生の活動を支援し，地域を担う優秀な人材を育成する「ビジネスチャレンジ事業」「学生地域活動大賞」，企画立案を行う人材育成の目的とした「学生就業体験（ワークプレースメント）」，地場企業の魅力を学生に伝えるための企業見学会や会社合同説明会の広報充実など「就活支援事業」を実施した。					
	指標内容		H28目標	H28実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	ホームページ年間アクセス数		90,000	94,343	105%	a
成果の指標	全国の学生数に占める福岡市の割合（％）		現状維持(※)	2.9	－	
補足	※「成果の指標」の「全国の学生数に占める福岡市の割合」の初期値は2.9％ (H23n)					